



平成23年 5月 2日  
日本原子力発電株式会社

## 敦賀発電所2号機 1次冷却材中の放射能濃度の上昇について

敦賀発電所2号機（加圧水型軽水炉：定格電気出力116万キロワット）は、定格熱出力一定運転中の平成23年5月2日、定例の原子炉容器内にある燃料集合体の周りを循環している1次冷却材中のヨウ素濃度および希ガス濃度の測定<sup>※1</sup>の結果、希ガス（Xe-133）とヨウ素（I-133）が前回の測定値（4月26日測定：5.2 Bq/cm<sup>3</sup>（Xe-133）、2.1 Bq/cm<sup>3</sup>（I-133））を上回る値（3,900 Bq/cm<sup>3</sup>（Xe-133）、4.2 Bq/cm<sup>3</sup>（I-133））であることが確認されました。

このため、燃料集合体から漏えいが発生した疑いがあると判断し、1次冷却材中の放射能濃度の監視を強化<sup>※2</sup>しました。

今後、漏えい燃料の特定調査を行うため、計画的に原子炉を停止することを検討します。

なお、本事象による周辺環境への放射能の影響はありません。

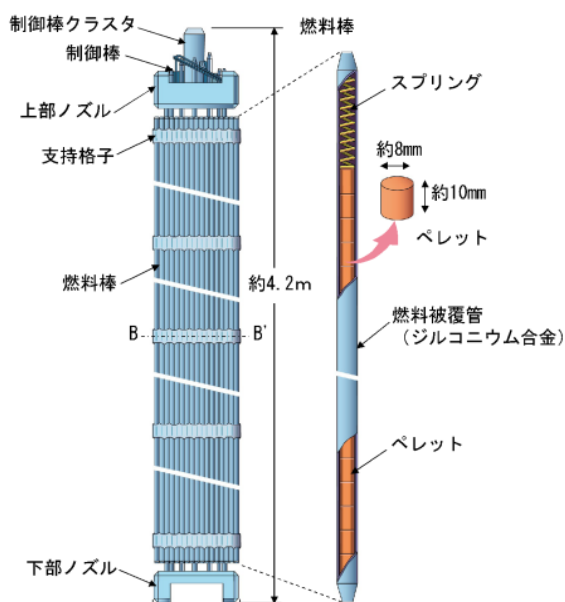
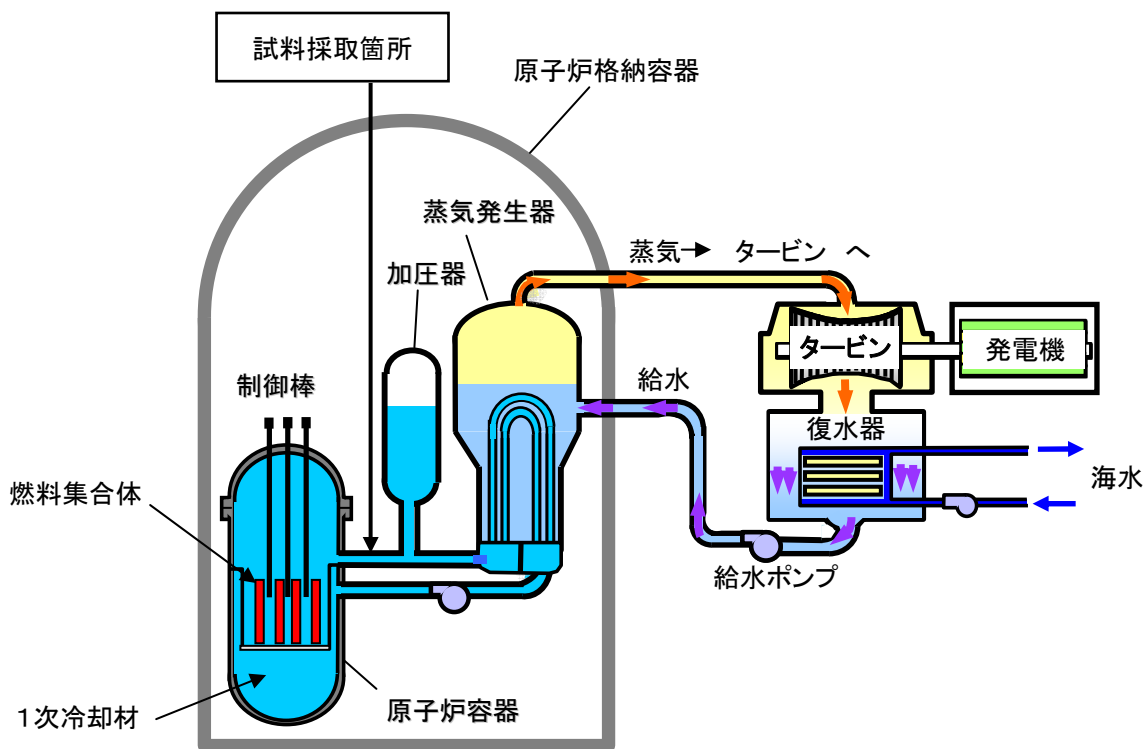
※1：燃料ペレットを収納している燃料被覆管に、ごく僅かな漏えいがあると、燃料被覆管内のヨウ素や希ガスが1次冷却材中に放出され、その濃度が上昇する。このため、1次冷却材中の放射能濃度を測定し、その変化から漏えいの有無を判断している。

※2：ヨウ素濃度（1回/週 → 1回/日）、希ガス濃度（1回/週 → 1回/日）

添付資料：敦賀発電所2号機 1次冷却材中の放射能濃度の上昇について

以 上

敦賀発電所 2号機 1次冷却材中の放射能濃度の上昇について



**【燃料集合体の仕様】**

燃料タイプ：17×17型  
 全長：約4m  
 全幅：約21cm  
 支持格子数：9個  
 燃料被覆管材質：ジルカロイ-4  
 燃料被覆管外形：9.5mm  
 燃料被覆管肉厚：1.14mm  
 装荷体数：193体  
 最高燃焼度：48,000Mwd/t

敦賀発電所2号機 1次冷却材中のヨウ素濃度、希ガス濃度および電気出力の推移  
 (第18サイクル 平成22年7月12日～平成23年5月2日)

